

早稲田大学 政治経済学部 英語 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	大問は昨年と変わらず5題。読解問題3題、会話文問題1題、自由英作文問題1題であった。全体的に見ると、分量は昨年並み、レベルは昨年より下がった印象だ。合格ラインは7割5分というところか。理工学部の合格ラインは4割台、法学部や国際教養学部は5割台という可能性もあるので、学部によってかなり違うというのがわかる。例年、文整序問題が差のつくポイントだと思われるが、非常に難しい年もあれば、結構簡単な年もあった。昨年の文整序問題は、英語のしっかりした知識に加えて、文と文の有機的なつながりをつかめるかという意味で、骨のある問題であったが、今年は選択肢が3つだということもあり、楽になったことは確かだ。会話文問題は早稲田大学の問題としては最も簡単な大問かもしれない。満点を目指さないといけない問題だ。文整序問題とともに差がつく設問の自由英作文問題はいわゆる「クオータ制」がテーマであった。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	読解問題	<p>分量は減り、レベルも若干下がったか。リード文のある内容一致問題は結構該当箇所も素直に書いてあった印象だ。いろいろなところを見ないと解けないような複雑なものではなかった。たとえば、2は以下のようなになる。第3段落最終文(The more …)が該当箇所だ。</p> <p><u>The more urgent aspect</u> ~ is what impact AI might have on people's jobs and way of life.</p> <p><u>The writer seems most concerned about</u> the way AI might (b) influence our lifestyles and work practices.</p> <p>impact=influence などは品詞は違うが結局同じことになる。語整序問題はすべての選択肢を使うとは限らないことに留意せよ。ここはすべての単語を使うが、政治経済学部の語整序問題はすべてを使わないほうが多いことを頭に入れておこう。文整序問題の選択肢が3つになったのがこの最大のポイント。(C)の One scheme→(b)の But such a scheme とつながるのは問題ないか。「ある取り組みが解決策として推奨されているが、しかしそのような取り組みは意味をなさない」の流れだ。そして、such a scheme を否定して(A)の A more practical approach の説明に移る感じだ。また、scheme = approach の関係を見抜けたであろうか？ 比較的解きやすい文整序問題だったと思われる。</p>	標準
II	読解問題	<p>分量、レベルとも昨年並みだろう。政治経済学部らしいテーマ。イギリス文化が冷戦に与えた影響についてだ。政治経済学部は設問を論理的に解かせることが非常に多いが、この空所補充問題はどちらも後ろにコロがある。当然、後ろが具体例なので、後ろがヒントだ。リード文のある内容一致問題は、たとえば2の場合、1の空所と3の空所間に該当箇所があるのが基本。該当箇所がある程度わかってしまうのはおもしろい。語整序問題はすべての選択肢を使うとは限らないのが政治経済学部の特徴だ。ここは7語中6語を使うことに注意しないといけない。問題としては非常に簡単であった。ここも当然文整序問題がポイント。こちらも3つの選択肢なので、4つに比べるとかなり楽だ。Meanwhile は同時性を表す。「一方」などと訳すので対比だと思われるがちな語だ。気をつけよう。</p>	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
II		for example は上で述べたことが抽象、これから述べるものが具象で、同じような内容を述べると言っている。また、空所の後ろの It is little wonder that ～「～するのは当然だ」は前が原因、that 以下が結果となっている。ぜひこのような論理的関係を少しでも意識していけば、間違いは減っていくだろう。	
III	読解問題	分量は減ったが難易度は昨年並みか。たまたまだろうが、去年はブログ、今年にはインターネットがテーマであった。1の空所補充問題はそれぞれ後ろの内容がヒント。政治経済学部では非常に多いパターン。語整序問題はやや難しいか。from memory で「そらで、記憶だけで」の意味がある。centuries after they were composed のように「期間 A+after ～」で「～した A 後に」の使い方がある。意外と知られていない表現。法学部で昔狙われたことがある用法だ。ここの文整序問題は面倒。Let's face it「現実を直視しよう」は以下に不快だが真実を述べる表現。Yet でどこが逆接になっているかを把握する。that pleasure が何を受けているか。また、(a)の後ろの内容が空所の次の文で具体的に述べられているなど、3つの選択肢であっても意外といろいろなことを考えないといけない。やはりポイントとなる設問だ。	標準
IV	会話文問題	昨年も結構簡単だったが、さらに簡単になった感じだ。1と3の語整序問題はそれぞれ like no other place on earth, the great fun we could have と並ぶ。前者は品詞上、上のように並べるしかないようだが、「～+like no other place」で「他の場所にはない～」の使い方がある。後者もこれといって他の並べ方がなさそう。2は true enough で譲歩を表すことができ、直後の But とつながるのだが、知らなくてもそうなるのかなと感じられる問題。とにかく、政治経済学部の会話文問題は満点を目指さないといけない。	やや易
V	自由英作文	今回は“A law should be passed in Japan establishing a minimum percentage of women in key positions in the government and corporations.”であった。去年が“Gay marriage should be made legal in Japan.”で一昨年が“Smoking should be made illegal in Japan.”であったので、偶然の一致なのか、法律の話が続いている。例年通り社会問題がテーマであったが、今回のテーマは日本人にはあまりなじみのない問題であった。ポイントは2つの理由が書けるかどうか？ 今後はどういうテーマになっていくのであろうか？ a paragraph や giving at least two reasons, you agree or disagree with it の部分をしっかり押さえて、まずは指示された通りに書くことが重要だ。100語程度で書くようにと指摘する問題集などもあるが、早稲田大学が指示したことをしっかり守ればいいので、多く書く必要はない。他の大問との関係もあるので、指示さえ守ることができるのなら50語程度で十分だ。理由の2つ目が出てこない可能性がある。1つだけの理由では点にならない可能性が高いので、その場合にはあきらめるのも一つの手だ。	標準